ご存知ですか？

清流のシンボル、「バイカモ（梅花藻）」
が桃ノ木川で見られることを！

　荒牧町の天神橋と下小出町の観音橋から下流を見ると水草が水に揺れているのがバイカモです。

　バイカモは、一般に水底が砂質で冷水の清流に生育する沈水植物で、白梅に似ている花が咲くのでバイカモ（梅花藻）という名が付けられ、ウメバチモ（梅鉢藻）ともよばれます。

　標高 100m 前後の市街地を流れる川に生育しているのは、日本でも数少ない例であり、前橋市のキャッチフレーズである「水と緑と詩のまち」にふさわしい、他に誇れる植物といえましょう。

　県内では利根沼田地域や吾妻地域に分布しますが、いずれも水温が低い清流です。

（静岡県三島市の柿田川や長野県の安曇野が有名です。）

バイカモについて

バイカモ（梅花藻、梅鉢藻）は川底が砂質で、水温の低い清流に生育する沈水植物（清流のシンボル）として知られています。茎は１ｍ以上にも伸び、3～10 月には梅に似ている白い花が水上に出て咲きます。茎は切れやすく、切れると茎の節から根を出して繁殖することができます。花が咲いた後には、クワの実のような小さな果実ができます。この果実の中に種子が入っており、種子は秋に発芽して生長し、翌年には花が咲きます。切れた茎の節から根が出たり、種子が発芽して新しい株になったりと、繁殖力の大きな植物です。しかし、他の沈水植物と同様に、乾燥には極めて弱いので水の外に出るとしおれ、また水が汚れたり、水温が高くなると枯れてしまいます。

桃ノ木川のように標高が約 100m の平地を流れ、水温の上昇しやすい川にバイカモが生育しているのは、国内ではかなり珍しいと思われます。

前橋市でバイカモが分布しているのは、桃ノ木川では桃の木橋（関根町）～繁年橋（下長磯町・上増田町）、広瀬川では石川橋（平和町）～桃ノ木川合流点（下増田町）です。ときおりバイカモの切れた茎が、広瀬川下流の伊勢崎市で見られることもあります。

桃ノ木川から分れた水の流れる佐久間川や、広瀬川の分流である端気川などにもあり、花が咲いています。市役所と桃井小学校の間を流れる小川にもありますが、流れが速過ぎて花は咲かないようです。

わが国では静岡県三島市（柿田川）や長野県松本市（安曇野）が有名です。北海道・本州・九州に、国外では朝鮮半島や中国大陸に分布しています。

群馬県では尾瀬地域・利根沼田地域・吾妻地域に分布しており、いずれの場所も標高が高く、水温の低い山岳地域の清流が主な分布地です。したがってバイカモが生育していれば、そこは清流で、水温は真夏でも約 15℃以下であろうと思われます。

前橋市では桃ノ木川と広瀬川、及びこの両河川から分かれた水の流れる川にも分布しています。何故でしょうか。

桃ノ木川と広瀬川は、広桃用水が田口町で分かれた、元は同じ川です。また、桃ノ木川には南橘地区の２か所（田口町、荒牧町）で、広瀬川から大量の水が供給されています。広瀬川と桃ノ木川の元である広桃用水は、佐久発電所を経由した水が流れる川です。

佐久発電所の発電機は 1～4 号機あり、1～3 号機は岩本町で取水された利根川の水で、4 号機は吾妻川で取水した水で発電しています。

沼田市より上流の利根川は山間部を流れる急流です。岩本町では利根川に片品川が合流しています。合流点より上流の利根川や片品川には水力発電所が多く、水は発電所と次の発電所をつなぐトンネルを経由してから片品川や利根川に入ります。そのため温まらず、水温が低い状態のまま岩本町で取水され、佐久発電所を経由して広瀬川と桃ノ木川に入るため、バイカモが生育できる低い水温の状態の水が流れているのです。

また桃ノ木川には佐久発電所を経由した吾妻川の水も加わっていますが、吾妻川の取水口は水温の低い上流にあり、地下トンネルを通っているために岩本町で取水された利根川の水と同様に水温は低いままです。

桃ノ木川や広瀬川に生育するバイカモはどこから来たのでしょうか。

みなかみ町と川場村の境には武尊山（2158m）があり、この武尊山を水源とする薄根川が川場村を縦断して流れ、沼田市で利根川に合流します。この薄根川やその支流には冷水を好むイワナやヤマメが生息し、養鱒場もあります。薄根川の支流にはバイカモが生育しています。沼田市にもバイカモの生育する小川がいくつもあり、これらの小川の水は利根川に流れ込んでいます。

薄根川や沼田市の小川に生育するバイカモの切れた茎や種子が流れ下って利根川に入り、岩本町で取水された水とともに佐久発電所を経由して広瀬川や桃ノ木川に入ってきたものと考えられます。

前橋市の桃ノ木川・広瀬川とその分流に生育するバイカモは、前橋市のキャッチフレーズ「水と緑と詩のまち」にふさわしい、他に誇れる植物ではないでしょうか。

（故片山満秋氏資料より）